

変わりゆく国際社会から、誰も取り残してはいけない

Gems American Academy Abu Dhabi 2年 山川 真菜夏

近年の世界情勢は私たちが予測できないほど、目まぐるしく変化している。現代社会を生きる上で、私のような高校生であっても、世界の動向や自国の立場を理解し、自分の意見を数年後の近い未来へ繋げることは重要だと思う。私は昨年、親の仕事の関係でUAEに移り住んだ。新しい環境への期待とは裏腹に絶対君主制のUAEは、政治や国際問題を扱う際に不自由を感じるが多かった。

現地のインターナショナルスクールで、私は模擬国連部に入った。模擬国連とは、各国の大使を学生が代表し、議題や他国、自国のリサーチを行なったのち、会議で世界各国と交渉や演説を行う国連を模した活動のことを指す。議題はSDGsを達成する過程で生ずる問題が多く、移民や脱炭素など多岐に渡る。私は元々社会情勢や国際協力に興味があり、日本でも他国や自国の国益を学ぶことができる模擬国連に好んで参加していた。また、会議をしている間は、自分が新しい未来へと世界を動かしているうちの一人だ、そんな感覚に没頭できていたと思う。そのため、私はUAEでも模擬国連が続けられると信じて疑わなかった。しかし、そこでは教育機関からの厳しい審査が対面会議への参加時に必須だった。部員には外交官になりたい人もいれば、ジェンダー問題に興味がある人もいた。けれど、同世代の人たちと唯一国際的な議論ができる機会であった模擬国連が行えず、私達はやりきれない気持ちでいっぱいだった。自由に討論できる日本が羨ましかった。どんどん自分達だけが国際社会から切り離され、置いて行かれているようだった。ただただ怖かった。

そんな時、模擬国連の会議がオンラインで行われていることを知っ

た。

「もしかしたら私が国際会議を開催することで、国際社会についてみんなでまた話し合えるかもしれない。」

そう思い、日本と議論の機会に恵まれないUAEの学生を繋げるため、模擬国連の運営を行うボランティア団体を立ち上げた。小さな学校単位の会議から始め、規模を大きくしていった過程で、金銭面で会議への参加を諦めていたり、模擬国連部がなく参加手段がなかったりする学生がいることに気付いた。誰もが模擬国連に参加することを妨げている理由は何か、また何がそれを根本的に解決できるのか。私は深く考えた結果、一度世界中から個人で参加ができる無償の会議を主催することにした。学生達が名前も顔も知らない人たちと国連問題について議論することに興味があるかはわからなかった。しかし、蓋を開けてみると、40ヵ国から計160人を超える申し込みがあった。私が予想していたよりも多く、参加者は皆世界情勢に関心を持っていた。会議では権威主義を扱ったが、私はハンガリー大使の一貫した自分の国を守る姿勢から学ぶことが多かったと思う。常識とされている問題を疑い、立場を変えてみることで新たな見方や考え方が生まれていた。また、それが模擬国連で議論を行う魅力であり、世界と話し合う価値だと思う。

もちろん、会議の参加者もまだ少なく、世界にはもっと様々な理由で議論をすることさえままならない人はいるだろう。しかし、この活動が続けることで、学生に国際問題を議論する機会を提供し、世界のこれからを支える学生同士を繋げられる可能性があると思う。また、小さな一歩だが、Globyという東南アジアの模擬国連組織が私達の活動をサポートしてくれることになった。私の目標は、SDGsを始めた国際問題において、誰一人として議論から取り残さないことだ。全ての国の学生はみな、同じ地球で同じ国際問題を共有しながら生きている。これからの時代を担う若者がどんな規則や制約にも左右されることがなく、純粹に世界を学び、討論することで更に次の世代へ多種多様な価値観や知識を繋げられるよう、私はこの活動を続けてゆく。